

3. 大学の将来に向けた自己点検・評価について

本学園の沿革においても示したが、昭和 29 年の開設以来、発展期、拡大期、安定期を経て、今日の改革期・キャンパス整備期（平成 12 年 4 月～現在）に至っているが、特にここ数年は、次のように大学を取り巻く外部環境が急激に変化している。

- ①大学・学部等設置認可の一部が認可制から届出制に移行し、大学自ら大学改革等を実施して大学としての継続的な質保証に責任を持たねばならない
- ②国立大学が独立行政法人化し、国・公・私立の垣根が事実上取り払われ、各大学の特色を評価して予算配分されることとなり、将来的には大学間競争が激化する。
- ③少子化傾向が進み、平成 19（2007）年度には全入時代に入る。

このような大学激動の時期に認証評価制度に早期に挑戦し、早期に問題点を抽出してその解決策を見出し、すぐに実行に移す必要があると考えている。本学を公的に認証評価していただいた結果を真摯に受け止めて誠実に対処することで私学の生き残りをかけた競争に勝利しなければならないと考えている。本学関係部署の積極的な協力により、平成 16 年 3 月からのほぼ 1 年間にわたる自己点検・評価活動の結果が、第 4 回目の自己点検・評価報告書として完成の運びとなった。これらの成果が本学の将来への堅実な発展に寄与できることを祈念する。